

テーマ4 クマなどの野生鳥獣の管理や被害防止対策（12件）

4-1 【秋田市 60代】

クマ・野生鳥獣対策について「解体所」を中心に意見を述べさせていただきます。

従来、秋田の害獣駆除の多くはクマでしたし、頭数も限られていたのでおそらく一部を除いてほぼ全頭解体が行われてきたと思います。しかしながら、今後ニホンジカやイノシシが増えてくれば、それも難しくなっていくと思います。

お隣の岩手県では、ニホンジカの年間捕獲数が年々増えており、現在では3万頭近くになっています。イノシシも1,600頭程度捕獲していると思います。秋田でもニホンジカとイノシシは増えてきており、爆発的に増えてくる時期が迫っているのではないかと危惧しています。そのとき、捕獲した動物がどうなるかといえば、解体まで手が回らずほぼ焼却することになると思います。

食肉化などの取り組みには、すでに先行している県外自治体の事例はいくつもありますが、成功事例は少ないように思います。費用を抑えた秋田県式の取り組みが必要だと思います。大規模な施設を一箇所に設ける事例もありますが、その運用はかなり難しいと思います。秋田では、小規模なユニット式の解体所の普及を図れないでしょうか。

秋田のハンターたちの要望を取り入れたユニット式の小規模な解体加工所を県の費用で開発して、活動するハンターのグループごとに安く導入できる仕組みを作っていただきたいです。ユニットハウスに保健所の許可要件を満たす設備を取り付けて、小綺麗な加工所として県内各地に配置されることになります。設備費が安く済み、捕獲したグループが近くの解体所で鮮度の良いうちに食肉化することになります。解体所の運営はハンターに任せますので、施設運営の公的な人件費はかかりません。運営状態を確認するための巡回などを担当課が行う必要はありますが、最低限の経費で県内全域に加工所を導入できる手法だと思います。

おそらく、現在よりも相当に多い駆除数になっていくと思うので、その一部でも有効に活用できる方法を今から考えておく必要があると思います。小綺麗な解体所があれば、狩猟に興味のある人への事前の体験の場としても有用な物になります。また収入や地域の産品になるものがあれば、それも新たに狩猟免許を取得する人の動機づけの一つになると思います。

基準を満たす解体所が比較的手軽に準備できるかどうか、今後の駆除後の対応を大きく左右します。食肉化ができる個体を増やすことができれば、それは皮革の利用にも繋がります。すでにクマ革製品の製造なども一部で行われていますが、山から授かったものを無駄にしないという、秋田のマタギ文化の重要な価値観を少しでも形にすることにもつながると思います。

今後予想されるニホンジカとイノシシの増加は、今までクマのことを中心に考えておけばよかった秋田の状況を一変させると思います。大変なことです、県外の先行事例から学び先手を打つ余裕が今少しある状態ですので、秋田式の加工所の開発と普及について早期に検討していただきたいです。

それから、狩猟免許取得希望者への補助金の拡充を図り、取得前・取得後の相談窓口をちゃんと設けていただきたいです。身近にハンターの知り合いがいなくても、情報を得たり相談できる場が整備されているべきだと思います。猟友会などの情報はごく限られているので、県の有効に機能する窓口などが必要だと思います。

また、クマやイノシシについては「猛獣」で有ることを明確にしていきたいと思います。臆病な動物だと言った前置きは考えものだと思います。人間よりも世代交代が早く進むわけですから、クマの行動様式は短期間に変わると考えますし、県民ひとりひとりが「猛獣」と向き合う現実がありますので、そのためにも言葉は明確であったほうが良いのではないかと思います。

本当は、農山村での人の活動を再び活性化させて、山野を切り開き利活用するという祖先から受け継いできた生活を維持していくことが対策としては重要なのだと思いますが、街中に人が集中し市街地が優遇される都市の在り方を見ると、野生鳥獣問題への根本的な対策は難しいように思います。それでもできることは何でもやるという泥臭い対応が必要なのだと思います。

一部の動物愛護団体などからの苦情等は今後もあるかもしれませんが、県として人優先の明確な姿勢を示して対策を進めていただきたいです。

4－2 【秋田県内（市町村不明） 30代】

人が死ぬよりなら、クマを駆除するべきです。

熊の駆除に関して秋田県外の人間の言う事は全て無視すべきです。これ以上、関係ない人間たち（東京や都会の何もわからない人間）によって間接的に秋田県人が殺傷されるのには我慢なりません。

4－3 【湯沢市 30代】

安全に関することは何よりも優先すべきだと思います。この課題が解決しないうちに、別の課題の検討はできません。その他のテーマを進めるためにも、まずはクマなどの野生動物の危険を秋田県から排除する必要があると思います。

私は県外から秋田県に引っ越してきて、定住する意思がありますが、クマの危険で外に出ることが難しい状況が変わらないのであれば、自分や大切な人の命にはかえられないので、引っ越しします。

専門家の意見を聞きつつ、クマを全て狩るのも良いのではないかと思います。クマを狩ったことで出る影響については、出た時に対策するというところでどうでしょうか？クマよりも弱い生物が多くなってしまったとしても、人間の安全にとってクマよりはマシだと考えます。日本で秋田県が先駆けてクマ狩りをするのがとてもいいと思います。

生態系への影響も、秋田県内だけなら大した事ないと考えますし、実験にもなり他県にも経過を知れるというメリットがあるし、いいと思います。また、クマの狩りが終わるまでは、クマスプレーを市民に配っていただくこともいいと思います。

4－4 【由利本荘市 30代】

熊による被害を減らすために県には具体的かつ迅速な行動をお願いしたいです！私は由利本荘在住ですが、山が近く、子供達を家の外で遊ばせるのも不安で仕方ない状態です。また、子供達が通う新山小学校付近にも熊はたびたび現れており、小さな子供達がいつ悲惨な被害に遭ってもおかしくない状況です。本当に悲惨な事故が起きてから対処するつもりなのでしょうか？

安心、安全で暮らせる環境を願うのは当然のことであり、県はそのための具体的行動を県民に示すべきです。どうかよろしくお願いします。

4－5 【秋田市 30代】

発砲制限などによる責任のたらい回しで住民安全が課題。野生鳥獣管理課（仮）を設置し、県条例で市街地発砲を迅速化、建物被害を補償（たとえば、10万円未満なら即日支給、それ以上でも全額補償）。知事が駆除優先を宣言し、法的責任を県が補償。猟友会は地元知識を提供、警察は緊急対応、自衛隊は危機時に支援など、行政、猟友会、警察、自衛隊が連携できるように訓練していく。出没情報アプリと避難訓練で県民安全を確保する。

4－6 【にかほ市 50代】

秋田でもここ数年で熊の人里どころか街中までの出没が相次いでいます。しかし、これは森の生態系を軽んじて来た人間の働きかけが影響したからなので、全く驚いた事態ではないと私は考えます。

退治すればいい問題ではなく、森の見直し、管理に力を入れつつ、対策をすすめていただきたいと思います。

対策の一案としては、見回りの犬を使った警戒対策が他県で功を奏していると聴いています。よろしくお願いします。そちらの情報も見つけ次第、再度送らせていただきます。

4－7 【大仙市 30代】

人身事故も減らし人とクマの棲み分けを図る有効な対策として放獣体制の構築と追い払い犬の導入を提案させていただきます。

1 放獣について

子グマや人に危害を加えていない個体や山の中にいたにも関わらず米ぬか等の匂いの強い誘引物におびき寄せられ箱罠に入ってしまった個体に関しては、学習放獣を実施すべきです。人の恐ろしさを学ばせることで子にもその教育がなされ結果としてクマの出没を抑止していく効果が見込まれます。

また、見境ない捕殺によってクマたちに与える心理的な影響は深刻だと思います。クマはとても賢く、何も悪さをしていないのに理由も分からず親や兄弟等のクマを殺されたクマは人間に対して恨みや復讐心を持つ可能性があります。そうした感情を人に対して抱いていけば人を見れば襲う殺人グマのような個体も発生しかねません。

つまり、現状行われている箱罾に入ればどんなクマでも全て殺処分していくという管理は人とクマの関係悪化によってかえって人身事故の発生を高めることになりかねないと懸念します。人里へのクマの出没を引き起こすことにもつながります。

秋田県に情報公開請求した県内の捕獲状況から推定すると、前年や前前年に母クマが殺されてしまい、山での生活の仕方や人の恐ろしさ、身を隠す術や冬ごもりの仕方などを教わることができず、人里に依存せざるをえなかったり人里に無警戒で近づいてしまう子グマや若いクマが大量に出てきていると考えられます。

2 犬による追い払い

これは他県ではベアドッグとしてクマ対策をしている自治体もいくつもありすでに効果の高いことは実証されています。秋田県でもかつて仙北市のクリ園で縄文柴犬を係留させた追い払い対策によってクマによる獣害がなくなった実証実験もあります。

日本では昔から番犬の文化もあり秋田県でも昔は野犬や放し飼いの犬も数多くおり、それだけのせいというわけではもちろんありませんが今のような市街地へのクマの出没はありませんでした。また犬を飼っていた僕のとなりの家でもその犬が亡くなってほどなくその家の敷地内にクマが目撃されたということもありました。

クマや野生動物との棲み分けのためぜひ犬による対策の検討・推進をお願いいたします。犬の訓練施設やトレーナーの育成、飼い主への助成金の仕組みづくり、普通の飼い犬でもモンキードッグを育成したり、夜間は放し飼いを可能とできる体制づくりなどが必要であると考えております。

4－8 【大仙市 50代】

秋田県では、2023年にツキノワグマが2,000頭以上補殺されましたが、今年もたくさんのツキノワグマが里に出てきています。補殺するだけでは、根本的な対策にならないのではないのでしょうか。

ツキノワグマをはじめ、野生動物の棲みかがしっかり確保されているかを考えなければいけないのではないかとおもいます。人に危害を加えた熊や、伝統的なマタギの狩猟としては、補殺はやむをえないとおもいますが、子熊や危害を与えない熊は里に来ないように学習させて山へ放つ実験、犬を活用するなど、他県の取り組みをもっと学ぶことが必要です。

4－9 【秋田市 70代】

昨今クマの生息範囲が拡大し、日常的に市街地まで出没し、県民の安全確保は喫緊の課題となっています。

対策案として、「ドローンの活用」を提案いたします。活用の具体策として大型のドローン下部に伸縮式の投網を設置しクマをその投網で捕縛します。

具体化に際しては、法制上の問題やドローンと投網の駆動技術や材質、また使用領域および捕縛後の措置等、それぞれに課題があると存じますが、ご検討頂ければ幸甚です。

4－10 【秋田市 70代】

奇想天外の方法も思考し、実践しなければ被害は止められないし、県の現在の注意事項だけでは被害は止められない。

クマ対策

- ・ 人間に危害を加えたクマは、駆除を基本とし、人里に出没したクマは徹底的に山中に追い込む対策を講ずる（危害を加えた人間であれば、すぐ捜索し逮捕まで進められるが、「クマ」は野放図状態とはこれいかに）。
- ・ 街中や郊外に出没したクマの追跡は、小型ドローンを活用する（主要な警察署に小型ドローンを配備し、担当職員に操縦方法を熟知させる。クマ対策のみならず他の捜査にも活用できる価値あり。）

＜例＞

- ① 赤外線カメラを搭載して探索し、「位置確認」を行う（葉や草丈で視界が効かない場合は効果を発揮）。
 - ② 塗料タンクを搭載し、体毛に散布し「個体識別」を行う（現在、発見されたクマは、周辺で発見されたクマと同じなのか、別のクマなのか判らないのが状況を解決）。
 - ③ 閃光器（フラッシュ）を搭載し、クマの目に発光威嚇し、山の方向に誘導する（一瞬の強い光は視界を奪う）。
- ・ 捕獲クマは、すぐ放逐するのではなく、檻の中で閃光、電気ショック、音、爆竹、胡椒南蛮等でストレスを与え、人間は怖い存在であることを体験させた上で行う。なお、体験させたクマに発信装置を首輪に装着し、その後の行動パターンを把握し、その効果を検証する。「雌クマ」には、人間は怖い存在だと小熊に伝承するか否かも検証する。
 - ・ 捕獲した「雄クマ」は、上記の方法に加え、「去勢手術」を実施したうえで放逐し、繁殖を制限する。手術行為は若手

獣医師等に経験させる。

- ・ クマが忌避する「匂い」、「音」、「低周波」、「光線」等の開発を研究機関や民間企業に公募をかけ商品化し、活用していく（こうした実証実験を行った事例と効果の有無も含め、情報を収集する）。
- ・ クマ用の「マイクロチップ」を開発し、行動範囲の補足や行動を電気ショックで行えるかの実証実験を行う（環境省に陳情し開発してもらうこともあり）。

4-11 【大仙市 40代】

クマが人里に降りてくる1番の原因は、エサがないこと。根本解決となる自然環境を整え森で生活できるように保護・整備することが大事。

4-12 【由利本荘市 70代】

クマの出没現場と風車立地現場が重なることが多いことから、風車建設によりクマなどの居住地が浸食されたのではないかの調査が必要ではないか。